館報 おおくま

おもな内容

2面……新年のごあいさつ
3面……清流、県芸術祭・文化展
4・5・6面……新年を迎えて
7面……文芸
8面……スポーツ
9・10面……みんなの広場

発行編集　大熊町公民館
印刷所　新栄社写真美術印刷㈱

新生の息吹き

遥か海のかなたから
輝かしい太陽が
希望の太陽が
今、昇ろうとしている
そして万物は新春を寿ぎ
新生の息吹きに
もえる

すがすがしい
元旦の朝
やがて昇る太陽の
恵みの光が幸多かれと
我等の家庭に
降りそそぐだろう
躍進する大熊町の
夜明けでもあり
又　今年も飛躍の年で
あることを祈る

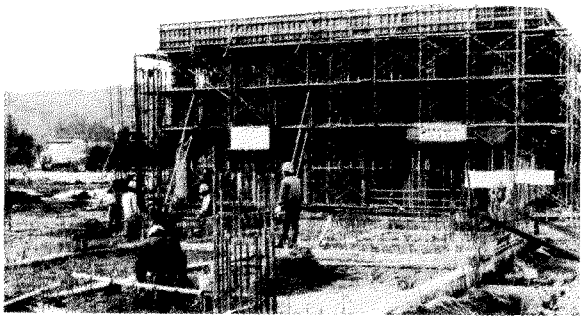
（写真は大熊町の夜明け風景）

新年のごあいさつ

教育長　太田芳一郎

あけましておめでとうございます。輝かしい昭和五十七年の新春を迎え町民の皆様方にごあいさつを申し上げます。

大熊町教育委員会最大の願望でありました町立大野小学校の建築が、町施策により二カ年の継続事業として現在槌音も高らかに、順調に工事が進められております。本年三月中には屋内体育館も併せて完成することになっており、学区民は勿論全町民にとりましてもよろこびに堪えないところであります。旧年度中、教育委員会が進めてまいりました各種教育施策にお寄せいただきました町長さん始め町民の皆様方のご熱意とご協力ご支援に厚く御礼申し上げる次第であります。



大野小第二期工事進む

さてここに学校・園舎を含め各種教育施設は県下町村に比を見ないすばらしい環境の配慮の中に、完成するのでありますが、その施設を最高度に活用し豊かな人間性あふれるしかも根性のある児童生徒、大熊町の次代を担う青少年の育成、これらを教育委員会最大の基本事項として進めてまいります。『青少年の健全育成』という活字が毎日目に入り、耳にとびこんで来ますが、今日程国が大きくとりあげ、町村も全町民に呼びかけている時は無いと思います。

昭和四十八年のオイルショック以来変容が激しくつづく社会、都市化の進行により、就業構造の変化、郷土・自然を知らない子供達の増加、親と子が一緒になることが少なくなり、加えて核家族化の進行と共に過保護化の様相により子供達は自らを失っている現状であります。青少年の問題行動を防止してその健全な育成を図ることは、ひとときもゆるがせにできない緊急な国民的課題であり、吾々大人の責任に於て解決しなければならないものと考えます。

本年度の教育委員会推進事項として、人間形成の基礎的部門を受持つ幼稚園教育と小中学校教育は前年にひきつづき、「体力づくり」と「情操教育」「道徳教育」を推進、幼小中一貫性を尊重した教育を重視いたします。幼稚園教育内容は、相双教育事務所管内屈指の評価をされております。又学校教育の効果を挙げるためには、「家庭教育」と「社会教育」の完全なバックアップが必要であります。健全なる家庭から健全な子供が育つといわれます。今年度公民館を推進母体とした家庭教育学級、部落公民館活動をとおした各家庭への浸透を図る学習を更にすすめ、全町民の生涯教育の輪を広げていきたいと思います。

国の青少年問題審議会も国民総ぐるみ運動を提唱しており、当町も次代を担う子供達の健全育成を町民総ぐるみで推進してまいりたいと存じます。終りに町民の皆様方のご多幸をお祈りしてごあいさつといたします。

新春によせて

公民館長　志賀友定

昭和五十七年の年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

健やかに新春を迎えられましたことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は社会教育、社会体育の各種事業に皆さま方からのご協力とご支援をお寄せいただき、円滑に進展いたしましたことを衷心より深く感謝を申し上げる次第であります。

「年々歳々人同じからず」

時の経過は夢のごとく消えてゆきます。一日一日の時を大切にし、空しい日であってはならないと思います。

皆さま方が、営々と育ててこられた、この豊かな自然を守ることとあわせ、地域の実態に即応した生涯の各時期における課題に対応した計画的、組織的、かつ創意と工夫にみちた社会教育と生活が豊かになり、自由時間の増大と自動車の普及、交通機関等の発達により歩く機会の少なくなった今日、スポーツ活動を通し、心身を鍛え健康で明るい家庭を維持することはきわめて重要であります。

幸いにも大熊町は他町村に比べ恵まれた体育施設を有しており、これが高度利用化を図って健康増進、体力増進、そして親睦と融和をはかる場とした社会体育をと、私達職員一同心をあらたにし、全力を注ぐ決意でございますので、皆さま方の変わらぬ御鞭撻、御協力を心からお願いすると同時に、皆さま方の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。

行事案内

高齢者大学
一月二十二日午前九時三十分
「趣味を生かそう」

婦人学級
一月中旬

家庭教育学級
一月中旬

コーラス教室
一月七日午後七時開講式

熊町部落婦人学級
一月二十三日

書道の力作ずらり揃う

県芸テープカット

県教委、県芸術祭実行委員会、大熊町教委主催、大熊地区実行委員会主管の第二十回県芸術祭書道展が十一月一日から三日まで第二体育館で開かれた。開会式では、県実行委員長、地区副実行委員長のあいさつ。遠藤町長の歓迎の言葉、町議会議長の祝辞があった。このあと「テープカット」でオープニング。会場には、県芸にふさわしい力作五百七十余点が展示され、大勢の書道ファンが訪れ熱心に作品を鑑賞する姿が目立った。町文化祭は、公民館において開催された。会場には絵画、盆栽、手芸、生け花など、園児、小学生、一般の作品七〇〇点を展示、訪れた観覧者たちを楽しませた。

力作ぞろいの書道

文化展の絵画

清流

無形の楽しみ

教育委員長　井戸川　清　隆

県芸術祭の書道展が大熊町を会場として、十一月一日から三日まで第二体育館で催され、延べ千六百人以上の参観者で賑わい、初めての行事としては大成功といえるでしょう。県芸術祭ですから県内から出展があるものと予想してましたが、主体は相双の書家と町内の有志書道愛好者の協賛及び学生生徒の作品が多かった。この成功のかげに公民館当事者の苦労を見逃すことは出来ません。この作品群の前に立って、一つ一つを鑑賞してそれぞれの作品にそれぞれの性格と品位があり、中には背筋をなでられるような感動を受けました。また癪にさわる自分を情なく感じました。

職業にしても或は趣味にしても己れを具象化し人々から評価珍重されるということは素晴らしい。しかも後世に作品が残りその人柄を偲ばれることは幸福なことといわざるを得ない。

さて自分にはと顧ってみたとき何もないことに気付き、ちょっとさびしい気がしないでもない。でも私なりの納得と慰めはある。とかく留守がちな町に帰ってきて自分なりに御恩返しの方法はないかと思索した結果、公民館と相談し剣道を通じ子ども達と接することによって何か貢献することが出来ないかということで、剣道教室を開き剣道スポーツ少年団を結成して五年目、現在七十六名のチビッ子剣士が汗を流しており、後援会も活発に応援してくれている。この子どもが成長していく過程において何らかの糧ともなればと念じながら、面金の奥にキラキラ輝く眼を見付ける瞬間は素晴らしい。でも私は語る何物も残らない。それでもよいと思っている。この子ども達がものを言い、社会の一員となり町を背負う若者となって、お嫁さんでも貰うとき、誰れか一人でも思い出して招待してくれればそれ以上の喜びはないと思っている。

青年学級大熊町地勢模型を創作

この程、青年学級では一年がかりで大熊町の地勢模型を完成させた。

模型五千分の一の大きさで、中屋敷地区の一部が入らなかったものの、ほぼ大熊町全域にわたった土地の高低、河川、道路等、一目で町内の地勢がわかるようになっている、青年学級は月に二～三回公民館で開催されているが、この回数だけでは学級生間の仲間意識も形成されず、活動も受身的傾向になりがちだということで、それでは自主活動として年間を通し我々学級生の手で何かをしてみようと始めたのがきっかけ。毎晩数人の学級生が公民館に集まり一年がかりで完成にこぎつけた。この模型は公民館に飾られることになり来館する人の目を楽しませてくれそうである。

地勢模型を製作する学級生

新年を迎えて

年代ごとに戌年生まれの方々にご執筆いただきました。それぞれ、人生の楽しさや役割などをかみしめながら新しい年を迎えられたことと思います。町民の皆様と共にお慶び申し上げます。

謹賀新年

〈公民館報編集委員〉
松本幸一　井戸川佳正
志賀栄子　木幡キサ
島　覚　鎌田清衛
佐々木親兵衛
大熊町公民館職員一同

私はいぬ年

横川かおり（大川原四）

私は、今までの生活をふりかえってみて最高学年らしい務めが、はたせたか、下級生たちのめんどうを、いっしょうけんめいみてこれたか、いろいろ反省しました。自分で思うには、責任をもってできていないと思います。できたといっても始めのうちぐらいでしょうか。ですから、のこり少ない小学校生活の三学期には、自分から進んでやれるようにしたいと思います。後期には、学級委員という仕事を持ち今まで以上に大変になってきました。これまでは、この仕事をやったことはなく、ただ学級委員に協力していた方ですが、今度はみんなに協力してもらえるように努力していきたいと思っています。四月からは、中学校にかようようになります。

中学校は小学校とはちがって大変だと思いますが、中学校に入ったら小学校で学んだ事をもとにして、頑張っていきたいと思います。

今年はわたしの年、いぬ年。その年にはじないよう精いっぱい勉強に運動にがんばって、くいのない年にする覚悟です。

昭和四十五年
三月三日生

私の抱負

青田文彦（下野上五）

私は昭和五十五年度「若人の翼」の団員として参加させて頂き、ヨーロッパを見聞してきました。それを機に五十六年度は、若人の翼友の会を始め、青年学級、原子力広報委員会、県政モニター、青年会、商工会青年部、と急に多くの団体に所属するようになり、またそれぞれに責任のある言動を求められるようになりました。

どんなふうにしたらよいか戸惑っているうちにいつのまにか一年が過ぎてしまい、いま思うと「あんなふうにしたらよかった」「もっと勉強してたらよかった」と、思う事すべてが後悔につながることばかりのようです。

しかし、今年はいぬ年、私の年です。去年の失敗を課題として、地面にどっしりと足をつけ、青年活動、また私生活の面においても後悔のない一年を過ごしたいと思います。特に昨年は自分の仕事がおろそかになりがちでしたので、今年は青田電気、設備二代目としてはずかしくない、そして、信念のある男になりたいと考えております。

昭和三十三年
十一月十八日

帰郷して

根本周一郎（夫沢一）

私こと昨年四月一日より熊町小の教員として、町民の皆様方の御支援、御指導を受け大過無く新年をむかえることを心から御礼申し上げる次第でございます。

三十五歳までを振り返って見ると、両親は東京で恋愛の末結ばれ第二次大戦中は一歳の姉を連れて空襲の中を逃げ回って生きのび、戦後、伯父が列車事故で亡くなったので、父が農家を継ぐために夫沢に戻りました。そのため、小生は、この自然の中で生まれました。昔は、保育所、幼稚園も無く、入学するまで、毎日遊びまわっていました。熊小へ入学と同時に、朝は六時起き、約一時間かけて四kmの道程を通いました。家にいるより、学校が好きでしたのでよほどの事がない限り休んだ事はありませんでした。また下校はいつも級友と遊びながら、山や川等で夕方までいた事を思い出されます。

昭和三十四年三月に七十四名の友と卒業後、熊中、双高と歩み、大学進学のため、勿来の関を去る時、列車の窓から見た海の色は、深く心に残りました。学生生活といっても、休みの日は、バイト、それ以外は勉学と苦学の日々でした。

卒業後、埼玉県入間郡藤久保小に五年間奉職しました。この時に妻と見合結婚し共に白河の関を通って帰県しました。しかし、この時母は他界していました。長沼小勤務四年間で二児の父となり、自然のきびしさと、人情の良さに涙を流しました。その後、川内一小に二年間通いました。

故郷に戻って、町の発展や人口の増加、公共物の立派さに驚きました。熊小の職員室から見える、環境緑化日本一の景色は、町民の心のささえでもあるように思いました。昨年、埼玉県での教え子より、東大、埼玉大、筑波大、早大東女大等の入学の便りと就職の便りを受け取り、しみじみと、教師になってよかったと思いました。

これからは、PTAとして、また一町民として微力ではありますが努力する次第です。そして、よりよい町の建設と発展に努めたいと思っています。

昭和二十一年
十一月十日生まれ

今年こそ大事に

宮本　喜美子（下野上五）

私は健康に恵まれた毎日を、過ごして来ました。健康であれば、働くこと、どのような苦境に落ちても挫折しないで、困難を克服することが出来て来ましたが、近頃の一日一日が過ぎるのの早いこと、四十七年の歳月もあっという間に過ぎてしまいました。

だれもが一度は通る人生の道ですが、苦しかった過去、特に楽しかったこと、過ぎし日が走馬灯のように思い出される昨今、物価の上昇、政治は不安定、女性の職場進出によります職場と家庭の両立のむずかしさを、痛感するばかりです。

幼少年期、青年期が過ぎ、もう壮年期、そして老年期も目の前です。今年の運勢を見ますと、あまり良くないようですが、少しでも余裕ある時間をもって、人に（町民、職場）愛され、可愛がられる愛玩犬、忠実犬のように、精一杯頑張りまして、一生を大事に胸を張って、生きて行けるように、努力したいと思います。

昭和九年
一月九日生

壬戌（みずのいぬ）の偶感

泉田　博隆（下野上二）

昭和も五十七年を数えることになった。元号としては記録的な長さだという。まことにおめでたいことである。私は大正壬戌の年に大川原の山の根っこで生を享けた。従って今年は還暦ということになる。よくもここまできたものだと我ながら感心もし周囲の方々に感謝している。大正末期から昭和の初期は不景気だったときいているがその様相は幼少のこととて実感としてあまりさだかでない。そして満州事変、五、一五・二、二六事件、日支事変、大東亜戦争と生々しい修羅場の歴史を通りぬけてきた。この六十年間の変わりようは全く全く大変なものであった。……日本の歴史のなかでこんなに長く平和の続いた時代があっただろうか。さて、世の中、大変便利で、物は豊富で誠に結構なことであるが、この頃私は世の中これでよいのかなあと思うことが度々ある。戦後三十七年の間に日本の民主主義は昭和元録といわれるほど爛熟し文明開化にふりまわされている。そして何か肝心なものが棄てられている感じである。科学や産業文化の発達は目ざましいものがあるがいろいろな社会悪の発達？も目ざましく全く困ったものである。このへんで軌道修正の必要はないのだろうか。物質万能のひずみは必ず出てくると私は思っている。俳人一茶は「めでたさも中位なりおらが春」とよんでいるが「中位」は庶民の平均値であろう。人間の欲望追求も「中位」あたりにしておけば世の中平穏無事なのではないだろうか。今年は戌年。私の生まれ年である。私は今、毎日が日曜日で凡々と生きているが今年は何か生産性のある生き方をしたいものだと思う。そして楽しく生きたいと思う。伊達政宗公の詩に「馬上少年過ぐ、世平らにして白髪移し、残躯は天の赦す所、楽しまずして是如何」とある。如何。

年頭にあたり大賢各位の御健勝を祈ります。

大正十一年十一月六日生

老人ホームにモチと民謡の贈りもの

去る十二月六日、大熊町民謡研究会、大熊町青年会、大熊町青年学級では、お年寄りに良い正月を迎えてもらおうと富岡町にある老人ホーム東風荘を慰問し、一足早いお正月を楽しんでもらった。

青年会、青年学級は、モチ米や野菜を持ち寄り、お年寄りを囲んでモチつきをしたあと、つきたてのモチをあんころモチ、ぞうにモチにしてごちそうし、また、民謡会では、日頃練習した自慢ののどを披露し、お年寄りのみんなから感謝された。

この慰問は会の恒例行事として行われているもので、お年寄りからは大変親しまれており、訪れるのが待ち遠しいとまでいわれている。

東風荘でモチツキ

町民憲章

健康で楽しく働ける　豊かなまちを　つくりましょう
みんなで助けあい　明るいまちを　つくりましょう
きまりを守り　平和な住みよいまちを　つくりましょう
自然を愛し　きれいなまちを　つくりましょう
進んで学び　香り高い文化のまちを　つくりましょう

年頭雑感

石田　真宗（大川原四）

この雑文は同期の友人松本編集子の指示によるものだ。あえて凡愚を顧みず古きを訪ねて未来を語ろう。

昭和六年九月十八日満州事変の勃発は大東亜戦の序曲だ。私は満州駐剳若松歩兵二十九連隊の一等兵としてあの奉天城に突入した。それから砲火の死線を越えること幾度ぞ。以来終戦まで祖国日本は一億一心勝つことを信じて戦ったのであった。しかし遂に神風は吹かず終戦の詔勅は新京で拝聴した。あの「忍び難きを忍び万世のために大平を開かん」は今も脳裡に去来する。それにしても、あれだけの八方破れの広大な戦域で、あれだけの長い間、戦った戦績は世界の歴史に類例がない金字塔で、その点日本は偉いのだと私は胸を張っている。戦後の経済復興も万難を排して将に世界に冠たるものもまたむべなるかなである。

私は在満十四年、楽土満州の建設になんの迷いもなく若い情熱を燃やし負けたりと雖もその思い出は赤い夕陽に照らされて楽しくも悔いはない。中国人の温情による九死一生の生還の事実はまさに小説よりも奇なりである。

三十六歳で帰国した時は家では田植の最中であった。杜甫の詩、「国破れて山河あり、城春にして草木緑なり」芭蕉の句「夏草やつわものどもの夢のあと」を実感したのであった。以来六十五歳迄力一杯働きに働かして頂いた。満足感で一杯である。農委として、議員として、農協長として、ここに改めて感謝の御礼を捧げます。

さて、このへんで過去を語るのはやめよう。吾々はいのちある限り未来を生きなければならない。今日一日を一大事として、あすもあさっても、もう死の領域にあるのですもの。それでは私の余生をどう生きるか、それは次の三つの実践に徹したい。

一は山の造林刈払いだ。

百樹百草に誘われて人煙稀れな山嶺に登り、鳴く山鳥に心耳を慰め、心なくして峯を出る白雲を見、流るる汗を清風に洗い仰ぐ太陽にいのち流るるを思い澄みに澄む蒼穹に心融け込む、これこそ天地同根万物一体の心境ではないか。仁者ならずとも私は山を愛し国土緑化に生き甲斐を感ずる。

二は水に釣行だ。

四季の水辺に一竿を託して俗塵を払う。春は鮒、夏は鯉、秋は鯛、冬は公魚である。魚よりも健康を釣る。見よ坂下ダムを、桜花は散りて湖上白妙の紋を描く。ここに一竿を投ず。

これ春風の日、鮒釣るにあらず、地心天心を釣るのだ。でも釣りも殺生の一つ、乞う釈迦よ、恵比須の心になってこの釣行を許せ。

三は読書だ。

万巻の書を読み千里の道を行くことは白髪老頭如何にせんやであるが、せめて雨降る日、燈火親しむの夜百巻の書を読みたい。「戦争と平和」世界の文学もよいが私には大乗仏典が好ましい。

目下「諸法実相」「久遠実成」の本仏法華経を勉強している。実は私の名、真宗にふさわしく浄土涅槃の他力易行の門をとも思われるが釈迦一代の真実開顕の妙法甚深の法華、自力聖道の難行道を撰んでいる。せめて地涌の菩薩の功徳の一片でもあやかりたい。

幸いその実践行のよすがに高齢化社会に対処する老ク運動の一兵として残るいのちを燃やしたい。

明治四十三年
二月二十四日生

ラッキー年を迎えて

熊　謙次郎（熊一）

昨年は酉年で年賀状に威勢の良いカクセミ飛翔の版画に、「年重ねヨイヨイにだけは成るまじと気のみ翔く元旦の朝」と狂歌じみた一句を添えて差し出しましたが、本年は昔なつかしの草屋根の親戚の家にマント姿で愛犬を伴に年始回りの復古調にしました。

私も今年は八十四才、七回目の戌年を迎えた訳です。七回目と云えば縁起の良いラッキーセブンの年です。

五年前突如として脳血栓に襲われ、三カ月間は全然意識なく、幽明の境をさ迷い医師も全快は覚束なく良く成ったとしても云々と、付添の者に宣告されたそうです。が奇蹟的にも一穂の寒燈消えやらず此れを目標に必死に這い上って漸く意識朦朧となって来ました。其後半年位は別世界を蔓述、やがて発病二年後病気の方は一先ず安定を保ち、意識もしっかりして今日に至りました。

第一病後は足腰の具合悪く、加えて車には滅法酔うようになり、外出も一切禁止、一年中屋敷内を歩き廻るのが最大の運動、これは体の運動に最少限間にあいますが、病気がヨイヨイになる可能性もある故、頭と末梢神経の運動が大切と其方に心掛けております。

七十才の手習で始めた仏画は繊細な運筆が必要で、もう無理のため中断、今度は中国古詩と国内の名詩の勉強、特に「書き覚え」する事に専念し始めました。今迄百八十首位のもの冊子二十冊位出来、詩をみつけ次第何冊でも反復冊子を作る考えでおります。此の仕事は終る事のない終生学習の最高の教材であると考えます。

今迄書いた詩編は三千首以上になり、常に李白や杜甫に又象山に松陰にと限り無い先人詩聖に面会語らい逢う事の心境は格別な感じです。

NHKとFMの朗詠放送は必ずテープに録音し、不明のものを調べるのも楽しく、又夜テープを聞いて寝につくのも最高です。

今の老人は楽しむ事が一ぱいです。併し健康なうち一人でも、楽しめる趣味を覚える事に心していただきたいと思います。お茶ばかり友達と飲んでいると眠れなく、又夜中忙しくなります。

吾々青年時代こんな「春雨くづし」が流行しました。「人の盛りを数えたら十七、八は花盛り、二十七、八色盛り、分別盛りは四十一、二オヤオヤ〳〵　七十、八十は禿げ盛りにボケ盛り」と平均寿命の大巾に延びた御時世では「八十、九十でもまだまだ元気、ボケたりなんかするもんか」と訂正して流行させたいもの、特に私は「胃腸内臓熊の胃以上足腰立たねどボケやせぬ」と訂正します。万一ボケたらお笑い下さい。町内の皆様殊に老倶の皆様一層頑張って下さい。

明治三十一年
一月三十日生

文芸

詩

秋

大野小二年　わたなべりか

秋は、きれいだ。
いろいろなはっぱの、
色がかわる。
夏は、みどりのはっぱも、
秋は、赤や、
黄色になる。
山も赤くなる。
おけしょうしたみたいだ。

はいしゃ

大野小二年　よしだたけし

はいしゃで、
じゅんばんがくるのをまつ。
心ぞうが、ドキ、ドキと鳴る。
「よしださん。」
とよばれた。
ぐら、ぐらのはに、
ちゅうしゃが、さされた。
ちくっと、いたかった。

短歌

渡部富久子

勤め持つ身なればいつも忙しと口癖の如言いて炊事場に立つ
稲の香は働くほかに能なきと土に生きたる父の匂いす

鎌田清衛

朝風に揺るる秋桜に日の射せば癒さむ蟲斯か揺るるにまかす
選果機の音のみ響く場内におみなら黙して梨を結めゆく

中山貞夫

黄ばみゆく夕暮雲を追い立てて野辺吹く風のそぞろ寒さよ
湖の光砕きて打ち寄せる野分きは早し山の色かも

鈴木百合子

野の小径蘭の花に魅せられて忙しき夕べに足を止めたり
裏山の木々の梢も青葉陰巡り来るたび暗がりを増す

松本ミヨコ

長き夜を我が世の春と高らかにうたいかなでる虫の楽隊

木下千代子

紫蘇の実をこく手洗わず受話機とれば女児生まれしとはずむ息子の聲

佐藤祐禎

贈られし詩集をよみて胸内をむなしきものの吹き通りゆく

俳句

菅野ミヨ

水引草秋雨の中露ひかる
風ゆらぎ小径せばまるこぼれ萩
落葉して不作の柿を数えけり

中山貞夫

白萩や病む妻の涙定まらず
山拓く重機一列赤とんぼ
湖渡る野分は盆地を一色に

河西かつ

サルビヤが燃えて花園明るくし
敬老の日招ばれて我も老を知る
幼児ら遊び土手の末枯すり切れる

高野昭二

一竿の雁流れゆく隠れ沼
鯉走る池に落葉の降りつゞく
風の街ポケットのボーナス気にしつ
眠る蚕の静光の中に立ちて見る
農の留守カンナの赤の燃えていて
薬湯の床の温もり夜長かな

中山安子

猪井静枝

花芙蓉駅のアナウンス列車入る
トーフ屋の委託の豆匂いけり
芋虫を手に遊べるはいとし子よ

佐久間信子

梨の香や瑞枝を延べて棚ひくし
新米をむすべば光りあつまりぬ
引っ越しの荷の京人形神無月

結城千代

夕陽さす小庭の蝶や秋ざくら
おみやげを隣と分けり味しめじ

武内ヨネ

老夫婦秋風わびし芙蓉かな
露の秋膝の痛みを覚えけり

民話

サユシュさま

天気のよい秋の日でした。ことしも稔りはよいし、百姓たちはせっせと働いていました。サユシュさまはたんぼ道を歩いて疲れ切った百姓をはげましていました。

この下野上の地にはまだ六戸の移民しか来ていないし、大和久にも五戸しか住んでいませんでした。

この人たちは加賀（富山県）から来たのでした。秋の取入れもすんだある日、みんなは集まりました。百姓のひとりがいいました。

○サユシュさま、お寺ほしいナ。どんなにちっちゃくともいいから

○国にいっときや月に三回ぐらいお寺まいりしたもんナ

○お前たちのいうことはよくわかる。でも十戸ぐらいではナ。

○そんなこといってたら、いつまでもできねえべ。

○わしもほしい。だから近いうち加賀へ帰って春になったら移民をつれて来よう。

○和尚さん。それはできませんよ。このごろ移民は一切出さないと聞いてるが。

○でもわたしには自信があるよ。みんなのとめるのも聞かずにサユシュさまは加賀へ旅立ちました。

二年たってもサユシュさまは帰って来ませんでした。その頃加賀は百万石の大きな藩でしたが、百姓にはきびしかったので方々の国に逃亡しました。人々が余り出国するので取締りをきびしくし、一人も出られなくなりました。あやしい人はみんな殺されました。

移民の人たちは小さな声でささやきました。

○サユシュさまはつかまって殺されたんでねえか。

○いや、そんなことあんまえ。

○おれはこんな心配してるんだ。加賀の役人が来ておれらをつれて行くというんじゃないかと。

○今さら帰れともいうまえ。

○だってナ、関東の西念寺には加賀の役人が来てナ。坊さん切腹しておわびしたんだって。

○困るナ、折角この土地にもなじんで来たのにナ。

サユシュさまはとうとう帰って来ませんでした。加賀の役人も来ませんでした。

人々もサユシュさまのことを忘れ去って仕事に励むようになりました。

文責　松本幸一

町あげてマラソン・ジョギング大会

一般男子八粁平子選手が優勝

第五回マラソン、第二回ジョギング大会が去る十一月十五日行われた。小学校五、六年生から壮年までの約百人が参加し、午前九時に大野病院前スタート。二、四、六、八粁コースで熱戦を繰り広げた。この結果、一般男子八粁は平子選手（二十二歳）が二十五分〇秒七で優勝した。

なお、上位入賞者は次の通り。

ジョギング（四粁）
一位　渡辺典郎（一分二十八秒差）
二位　鈴木国郎

＜マラソン＞
小学生男子（二粁）
一位　鎌田博展（六分四十五秒）
二位　中山敦、三位　大浦淳一

小学生女子（二粁）
一位　片寄千恵（八分三十秒）
二位　江川純子、三位　石田千秋

中学生男子（六粁）
一位　木幡和重（二十三分五十六秒五）
二位　佐藤寛丈、三位　金森健生

中学生女子（四粁）
一位　大内くみ（十八分二十七秒）

高校生男子（六粁）
一位　木村紀夫（二十二分十三秒）
二位　赤井智

一般（二十九歳まで八粁）
一位　平子幸男（二十五分〇秒七）
二位　志村充男、三位　内山徹

一般（三十九歳まで四粁）
一位　斎藤猛（十三分四十七秒二）

壮年男子（四十歳以上四粁）
一位　大内正美（十七分二十四秒）
二位　赤井光清、三位　鈴木義雄

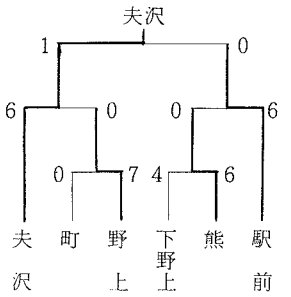
スタートから50m附近

町長杯部落対抗野球大会

優勝は夫沢チーム

昭和五十六年度部落対抗野球大会は、去る十月二十五日、大熊町営球場をメイン会場にして開かれ、六チームが参加され熱戦が繰り広げられた。なお成績は次の通りです。

優勝　夫沢、準優勝　駅前
三位　野上、三位　熊



町民スキー教室

募集人員　各回45名

第1回　1月10日（日）（日帰り）
宮城蔵王えぼしスキー場
会費3,000円

第2回　2月13日（土）裏磐梯スキー場
＼1泊2日　㊟プラザ五色沼Tel 02413（2）2411
14日（日）猪苗代スキー場
会費8,000円

申　込　参加費を添えて大熊町公民館へ申込み下さい。
先着順で締切らせていただきます。（印鑑持参）

主催　公民館・町体育協会

軟式（一般男子）

石川・佐藤組優勝

今年で第三回目を迎えた町民テニス大会が、十月二十五日町営テニスコートで開催された。

軟式一般男子、女子、硬式ダブルス、シングルス、トーナメント戦で試合が進められ、寒風の中で熱戦を展開した。なお成績は次の通り。

一般男子優勝　石川、佐藤組
準優勝　菅家、紺野組
三位　木幡、根本組

一般女子優勝　樋渡、本島組
準優勝　竹並、篠原組
三位　宮城、渡辺組

硬式ダブルス
優勝　川野、柚原組
準優勝　横山、小林組
三位　小林、斎藤組

シングルス
優勝　小林広之
準優勝　若松優子
三位　小澤祝子

テニスの表彰式

町民卓球大会は…

柳井さん（一般男子）が優勝

町民卓球大会は十一月十五日スポーツセンター第一体育館で行われ、一般男子では柳井誠さんが優勝した。町民の体力増進と卓球愛好者の親善を目的に毎年行われており、ことしは三十五人の選手が出場。渡部悟体協副会長あいさつのあと競技に入り、一般はトーナメント、中学生はリーグ戦で試合が進められた。成績は次の通り。

○一般男子①柳井誠②相原信夫③本田智啓、白土隆
○一般女子①渡辺栄子②吉田とし江③松本典子、植杉良江
○中学男子①佐藤勝文②新田文和③佐々木猛
○中学女子①伊藤ひろみ②阿久津恵子③藤崎かおり

みんなのひろば

「若人の翼」に参加して

北南米班長　田澤　憲郎

〝日本の裏側〟といわれる南米はいまや飛行機で一足飛び。モーレツなインフレには驚かされるが日系人の活躍に象徴されるように日本人に親しさを感じさせる国々である。

ブラジルやアルゼンチンは、インフレや外貨収支などでなお困難は残っているが、中進国へのペースを確実なものとしている。

インフレといえば、年率四百%をこえる激しい物価上昇はおさまったとはいえ、まだ年率百%をこえている。戦後インフレの記憶が遠のいた日本人にとって、インフレと市民生活が共存というのも興味深いことであった。

ブラジル社会の中堅クラスとして活躍している二世、三世層の特色は、地方にあっては農業界の中心勢力であるし、都市ではインテリが多いことだ。ここ十年、サンパウロの大学卒の十%強は日系人が占めている。彼らは極めて誠実に、自己の職業を通じて社会へ貢献している。二十一世紀の大国をめざして進んでいるブラジルの非常に多くの部門を担っている。

日系ブラジル人に対する日本側の態度は、ひどく重宝がる一面もあるかと思うと、ひどく冷淡な面も多い。しかし、日系ブラジル人をいつまでも通訳的なものと見てはならない。彼らこそ、もっとも日本に好意を持ち、理解しようと努めてくれる人たちなのだ。

二世たちは、これまではわりあいスムーズにブラジル国に受け入れられた。しかし、なんといっても新参者である。たとえば、百五十余年の歴史を持つドイツ移民のような底力はまだない。ほんとうに底力を持つまでには社会的な抵抗を受けることも予想される。移住百年祭を迎えるころ日系人は完全なブラジル人となっているのではないか。

この研修で社会に甘えていた自分を見つめ直すことができ、限りない研修の成果と貴重な体験を今後の活動の中で十分生かし、なお一層の研さんに励みながら地域社会に奉仕してゆきたい考えです。

最後に、この貴重な研修の機会を与えて下さった関係機関の諸先生方や先輩の皆さん、それに地域の皆さんに深く感謝申し上げます。

〝さわやかな秋〟

山々が色づきはじめ、秋の刈り入も忙しくなった頃。スクールバスに添乗した日の事です。園児達もにぎやかな会話の中、行津橋附近にさしかかった時、私は思わず「うわー、きれい。」と声を出してしまいました。窓の方を見た子ども達も、「先生、きれいね。」と言いました。そばの運転手さんも「コスモス街道だな。」と目をほそめました。さわやかな秋風にゆれて微笑んで、たくさんのコスモス街道みたい。ここで雨合羽を着て苗植えをしていた梅雨の頃、汗を流して草とりをしていた夏の部落の皆さんの姿が思い出されてなりません。そして、笑むコスモスに、今日一日の疲れをいやしてもらったような気がします。道ゆく人々の足どりも、ハンドルを握る人々の気持も、この道路にきたら安らぐ事でしょう。温かなやさしい皆さんの気持に感謝し、園児と共に通らせていただきます。またここは、交通量が多くなりましたが、安全運転の何の標識もいらない、これこそ、減速の標識だと思いました。今年もぜひ咲かせて下さい。コスモスの花を。園児達をのせたバスは、今日もコスモス街道を走ります。

（熊町幼稚園職員）　石橋裕子

歌と私

大川原　石田安里子

そもそも歌と私が近付きになったのは、二十才をこすかこさない頃でした。中学生の頃の通信簿で、確か音楽は、五段階評価の二であった事を覚えている。だからその頃の友達は私の変り様に驚く。

歌と友達になるきっかけになったのは、私が高校を卒業して市役所に入り、そろそろ仕事にも馴れ友達も出来た頃、その友達にさそわれて、その頃浜松に出来たばかりの〝うたごえ喫茶〟に行ったのが初めだったようです。店を手伝う人達は大学生が多く、母さんの歌、山男の歌、雪山讃歌など良い歌が沢山ありました。若い人達の熱気に包まれた店の中で、一番安いトーストとミルクで、音程のハズレも気にする事なく、大きな声で思いきりうたうと気持もはずんですっかりやみつきになり、退庁するとその足で通ったものでした。健康的で明るい歌ばかりでしたから、私の性格も明るくし積極的にしていったようです。

このような経過で歌との付き合いが始まったのですが、自分はもともと音痴なのだと思って疑いません。これまで私が歩んで来た人生の中で沢山の良き友人に恵まれたのも、歌との出合いが大きな意味をもっているような気がします。良き友は貧しい人生に彩りを添え心豊かにしてくれます。

一月から大熊公民館でコーラス部を作るという話しをきいて、早速参加しようと心に決めている一人ですが、沢山の人が参加してくれたらどんなに素晴らしい合唱が出来るだろうと期待しています。

そして宮城県の米どころの小さな町で、ベートーベンの第九を町民ぐるみでうたったように、大熊でも老いも若きも一つになってハーモニーを作りあげたらどんなに素敵かと、まだはじめていないのに心踊らせています。

栄えある席に列席して

吉田　菊（熊）

主人、吉田信清は、はからずも昭和五十六年秋の叙勲受賞者としての光栄に浴し、その伝達式には配偶者同伴で出席されるようにとのお招きでしたが、あいにく主人は健康を害しておりまして出席出来ませんでしたので、私が代理として出席いたしました折の模様を披露いたします。

伝達式は去る十一月十二日最高裁判所の大会議室において挙行され、伝達は勲章等の賞賜別に行われ勲記及び勲章はそれぞれの代表者に渡されましたが、受賞者の皆さんには来し方を思い、今の幸せをかみしめてでもいたのでしょうか、一様に感慨深げな面持ちでした。式が終ると正午から最高裁判所長官招待の祝賀会（立食形式）が特別会議室において催されました。この席には皆さんがいただいたばかりの輝く勲章を着用して出席されましたので、まさに盛儀というにふさわしい雰囲気でした。

これが終ると午後一時から最高裁判所の大法廷と図書館の見学があり、どちらも念入な構造に感じ入りましたが、なかでも大法廷の厳かな構えには心打れるものがありました。

それから午後一時五十五分拝謁のため、正面玄関からバスで出発し坂下門を経て、皇居へ、拝謁は午後三時に宮殿春秋の間において天皇陛下より励ましのお言葉を賜り、代表の方よりお礼の言葉を述べられました。

この間、ほんの僅かの時間であったでしょう。併し、私にとっては最高に満たされた時間であったような気がします。

拝謁後皇居で記念写真の撮影がありましたが、この頃になってようやく緊張もほぐれ心にゆとりも出てまいりました。

松の緑も今日の良き日を寿ぐかのように映えていました。

最影が終ると乾門から退出し、最高裁判所に戻って御下賜品を頂戴し、解散となりましたが、この日の感激は生涯の思い出になることでしょう。

熊町の思い出

新地町長　橋本正一

私は昭和六年四月から昭和十一年三月まで五カ年間の勤務だが、二十二才の青春の時だった。前任地の安達から是非故郷の相馬の地に帰りたいと、当時熊川出身の県視学の渡辺寿重先生に頼んでおいたら先生の出生地の熊町小学校に赴任することになった。熊町は未知の村でもあり不安だったが、村長さんは双葉郡の町村会長の志賀保さん、校長は郡校長会長の志賀秀孝先生、学務員は双葉地方政財界の大物の太田治幸さんでどこから見ても熊町は双葉はおろか福島県町村会での第一番の村だった。

しかも相馬藩時代は天領に界した所だけに、ほとんどが士族というお家柄に驚きの外なかった。校舎は今の場所で広々とした校庭、小松に包まれた庭園、グランドは二百米で、ほんとに恵まれた環境だった。私の担任は小学校四年生でなかなかの粒ぞろいで熊川の戦死された、松永一君を始め荒木幹夫君、大野で農機具店で活躍されている青田寿雄君がおり、女では夫沢の樋渡よし子さん、志賀文子さん、熊川の渡辺よし子さん等多士済々であった。

特に青年学校指導員をやっていたので夫沢の橋本鉄治郎さんを教官に町の他界された田村久義さんと全力投球で指導に当ったものだ。

お陰で査閲は常に「優秀」で立派な成績をあげ特に夫沢の青戸光成君、池下広君などは最もたるものであった。

また青年団は特に郡内随一で体育については右に出る町村がなかった。双葉中学（今の双高）グランドでの大会には、百米は私が出場、二百米は町の川村君、四百米は町の草野君、千五百米では夫沢森田君、一万米には同じく夫沢の山本君、走り高跳びには熊川の小畑君それに柔道には熊の石田万蔵君と高橋一郎先生、相撲では町の志賀君といづれも第一位で断然他町村を足元にもよせつけず五カ年連続優勝したものだった。県大会に双葉郡の青年団が昭和六年に優勝したがほとんどが熊町村の選手だった。あれから私も校長生活二十年を勤め、今新地町長四期を終えようとしているが、熊町でのあの時の五カ年がいつでも思い出され、よみ返ってきて励ましの資料になっており、いつも感謝しているところであります。この機会に未熟な私を陰に陽にお世話下さった既に他界された方々、現に活躍されておられます方々に対し心から感謝を申し上げて謹んで思い出といたします。

（筆者は旧新地村に生まれ教職員生活三十五年勤め新地町長として現在も活躍されています）

図書あんない

公民館では、子供向きから、成人向きまでたくさんの図書を購入し、図書室に備えてあります。ぜひお気軽にご利用下さい。

なお、図書室での閲覧のほか、貸出しも行っております。最近購入した主なものを紹介します。

。太陽の子　。空からきたこ
。生きてん母ちゃん等。

編集後記

新年おめでとうございます。二年連続の不作、不作でたいへな年でしたね。でも、もう後を振り向くことは止めましょう。心機一転前進あるのみ！我々編集委員並びに担当者一同も気持ちを新たにし、新鮮で、よりよい企画をたて、町民各位に、より親しまれ、より愛される館報に邁進する所存です。

今年も、昨年と同様ご意見、ご希望も合せましてふるってご投稿ください。

○館報の原稿をお寄せ下さい。要領は四百字詰原稿用紙一枚程度。

① 主張、産業、教養、文芸に関するもの何でも結構です。

② 政治的な色彩を帯びたり、個人非難に属するものでないこと。